回覧

すずか税のたより

第140号
令和8年11月発行

主催及び発行者
鈴鹿納税貯蓄組合連合会
TEL 059-371-0711
（鈴峰企業㈱内）

協賛
鈴鹿税務連絡協議会

令和8年度 応募状況

作　文	263編
習　字	1,555点
絵はがき	897点
標　語	2,708点

小学生の 絵はがきコンクール



鈴鹿税務署長賞
鈴鹿市立若松小学校
6年　椋本　智貴

小学生の 税に関する習字



鈴鹿税務署長賞
鈴鹿市立桜島小学校
5年　藤原　瑛麻



三重県教育委員会賞
鈴鹿市立桜島小学校
6年　西岡　杏夏

中学生の 税の標語

税金は　明日の笑顔の　貯金箱

鈴鹿税務署長賞
鈴鹿市立白子中学校　1年　森川　妃奈

「すずか税のたより」は鈴鹿税務連絡協議会のホームページに掲載しています。

中学生の　税についての作文

三重県教育委員会賞

みんなの生活を支える税金

亀山市立中部中学校　　３年　佐久間　泰希

母は僕を妊娠中、切迫早産で大学病院に入院し、出産を終えるまで計３回入院したという話を聞いた。僕は産まれた後、呼吸が上手にできず、そのままNICUに連れていかれ、母が僕を抱っこできたのは一瞬だったそうだ。母がやっと僕に対面できたとき、僕はモニターやチューブ、人工呼吸器につながれていて、その姿を見た母は泣きそうになったということだ。結局、母の入院期間中僕はずっとNICUで過ごした。

僕はこの話を聞いて、僕の命を助けてくれた医師や看護師、今まで元気に育ててくれた両親に感謝の気持ちを持った。しかし、この作文を書くために税について調べていくうちに、感謝すべき人が他にもいるということを知った。それは、税金を納めている納税者だ。

「税金」と聞くと、一般的にはどんなイメージを思い浮かべるだろうか。多くの人が、「取られる」「高い」というようなネガティブなイメージだと思う。しかし、それは勘違いだ。「税金」とは、僕たちの生活を支える、なくてはならないものなのだ。「税金」があるからこそ、安心して暮らすことができる社会が存在しているのだ。

僕の医療費は全額払ったわけではなく、オムツ代やミルク代などを除いて、あとは税金で全てまかなわれていた。本来なら何十万円もする医療費を、一般家庭が捻出するのはとても大変だろう。出産後、肉体的にも精神的にも大変だった母が、医療費のことを気にしなくてもよかったことや、僕が今こうして元気でいられるのは、みんなが納めてくれた税金のおかげだったのだ。

僕もまだ中学生なので、消費税を払うときしか納税する機会はない。しかし、数年後、働くようになったら所得税などを納める日が来るだろう。この税金が誰かを助ける、生活の支えになることを今回の作文で知ることができたので、僕は納税することで自分の役割を果たしていきたい。

これからの日本を背負う僕たちは、税金について学んで理解することが必要だ。正しく納税することが、知らないところで誰かのために役立っている。税金のおかげで健康に過ごせる日常に心から感謝し、これからも安心して暮らせる社会をみんなで築いていきたい。

鈴鹿税務署長賞

税金が背負うもの

鈴鹿中等教育学校　１年　大原　晴斗

８月９日、長崎の原爆について調べ、１枚の写真に目が止まった。

裸足の少年が、亡くなった幼い弟を背負い、まっすぐ立っている。火葬の順番を待つその姿に、僕は言葉を失った。

少年が背負っていたのは、弟の体だけではない。家族を失った悲しみも、弟を弔う責任も、小さな背中に戦争が押しつけた重さだった。

戦争が終わって81年。僕は戦争を知らない。ひいおばあちゃんは弟妹と疎開し、兄を戦争で亡くした。「軍服を着た兄さんはかっこよかった。」悲しみは今も消えない。

学校へ行き、家族と食卓を囲む、その「当たり前」は、約束されたものではない。

税金は、買い物で払い、道路や学校に使われるお金だと思っていた。だが税は人を雇い、設備を保ち、災害に備える。何もない日から社会を支えるお金なのだ。

僕の住む津市は、鈴鹿市、亀山市と消防司令センターを共同運用し、119 番を受けて市境を越えて助け合う。

僕は店の外で高い所から頭を下にして落ち、救急車で運ばれた。幸い、たんこぶで済んだ。あの日、僕は税を救急車という形で受け取っていたのだ。

119 番が鳴ってからお金を集めたのでは遅い。税は誰かの善意を待たず、何もない日から命を守る準備を続ける。命に市境はない。隣の市まで税でつながっている。

つながりは国境の外にも伸びる。税は外交や国際協力、平和教育にも使われる。税を払えば戦争がなくなるほど世界は単純ではない。「海外より国内で困る人に使うべきだ」という意見も分かる。しかし、感染症も環境問題も戦争の影響も国境で止まらない。遠い国を支えることが日本の日常を守ることもある。

戦争は命や家族、日常を奪う。税は市境や国境を越えてその重さを分け合う。人を支える税は、戦争と反対の方向を向いていると思う。

ただし、集めるだけでは社会は良くならない。使い方で未来は変わる。だから行方を知り、必要なら声を上げる責任がある。選挙権のない僕にも、望む未来を考えることはできる。

あの少年は、社会が分け合うべき重さまで、一人で背負っていた。税とは、誰か一人の背中に社会の重さを押しつけないために、みんなで少しずつ背負う仕組みではないだろうか。

あの少年の重さは軽くすることはできない。でも、次の子どもに同じ重さを背負わせない未来は選べる。

税金が背負うものは、一人一人の命と暮らしだ。僕は子どもが子どものままでいられる日常を守るため、税の行方を見続け、いつか僕も、その重さを引き受ける一人になりたい。

鈴鹿税務推進協議会長賞

みんなで繋いでいく思いやり

亀山市立関中学校　２年　松本　侑芽

2022 年１月１日。多くの人が年明けを楽しみ、のんびりと過ごしていた中、能登地方で最大震度７の地震が発生した。その時買い物に出かけていた私は、止まっていた車の中で突然小さな揺れを感じた。翌日のニュースに映っていたのは、地震や津波により壊れてぐちゃぐちゃになった建物、車が通れないほどに亀裂の入った道路、264 棟が焼損した大規模な火災など、予想を遥かに超えた大きな被害だった。スーパーに行くと、いつもは売られている地方産の野菜が少ししか並んでおらず、その横には地震の影響で物流が止まってしまったという張り紙があった。その紙からはどれほど地震が大きかったのかが伝わってきた。私の地域は、建物が倒壊するなどの直接的な被害がなく、遠い出来事のように感じていた。しかし、ニュースに映っていた映像や、スーパーの張り紙を見て、たくさんの人の暮らしが、地震によって変わってしまったことを実感した。当たり前の生活すらも壊してしまう自然災害。私は恐怖と不安を感じたことを今でも鮮明に覚えている。

そんな中、被災地の復興や、被災者の支援を支えたものの一つが税金だ。年々上がり続けていて、買い物のたびに鬱陶しいと思っていた税金。しかしその税金が、災害によって普段の日常を失った人達を支えるために使われていることを知った。インフラや公共施設の復旧、被災者の生活支援などを行うためには多くのお金が必要になる。そのために税金が使われていることが分かり、税金をより身近なものとして感じるようになった。

税金が使われているのは災害時だけではない。新しい教科書、学校、病院など、私たちの生活の中で欠かせないものの一部は税金で作られている。今まで私は税金を「払わなければいけないもの」としか見ていなかった。実際、買い物で消費税がかかるとき、なくなれば楽になるのに、と思ったことは一度や二度ではない。しかし、税金について考えているうちに、税金はただ払わなければいけないものなのではなく、私たちの生活を守ってくれているありがたい存在だということに気づいた。

もちろん、消費税を払ったり、将来、税を納めることをまだ不安に感じることがある。しかし、誰かが働いて納めてくれた税金は、私が使う教科書や、災害時の生活支援など、形を変えて私たちの力になってくれていることを知った。

能登半島地震から長い年月が経った。そんな今でも、能登半島には復興が進んでいない地域がある。あと何年か経てば、私も納税者になる。将来、私が納めた税金が、自然災害によって元の生活を失った人たちの支援や、被災地の復興に使われてほしいと思っている。誰かに支えられた今日が、いつか誰かを支える力になる。税金は、みんなで繋いでいく思いやりだ。

鈴鹿納税貯蓄組合連合会長賞

「税金って、嫌われすぎじゃない？」

亀山市立中部中学校　３年　渡辺　菜乃花

私は「税金と聞くと、まず思い浮かぶのは「高い」「取られる」「払いたくない」という言葉です。正直に言えば、税金が好きな人なんてほとんどいないと思います。コンビニで買い物をしても消費税がかかるし、大人になるともっとたくさんの税金を払うと聞きます。だから、「税金なんてなければいいのに」と思う人がいるのも分かります。でも、私は最近、「税金って嫌われすぎじゃない？」と思うようになりました。

例えば、学校に行くと教室があります。机があります。エアコンがあります。家を出れば信号もあるし、病気になれば病院へ行けて、火事になれば消防車が来ます。不思議です。税金を払うときだけ文句を言って、税金でできているものを使うときは当たり前だと思ってしまうからです。私は、税金はゲームでいう「裏方キャラ」みたいなものだと思います。主人公ではないので目立ちません。でも、裏方がいなくなったらゲームは進みません。税金も同じです。目立たないけど、なくなったら私たちの生活はすぐ固まると思います。もし日本から税金がなくなったらどうなるでしょうか。最初は「ヤッタ！お金を払わなくてもいい！」と喜ぶ人もいるかもしれません。でも、その後は道路はボコボコになっても直らないかも知れないし、公園は草だらけになるかもしれません。学校の机が壊れても新しいものを買えないかもしれません。救急車を呼ぶたびに高いお金が必要になるかもしれません。そう考えると、「税金ゼロ」は夢のようで、実は結構こわい世界なのではないかと思います。私はまだ中学生なので、自分で税金を納めることはありません。でも毎日税金にはお世話になっています。つまり私はまだ払っていないけれど、ちゃんと受け取っている側なのです。

私は、税金は「未来の自分へのプレゼント」でもあると思います。今みんなが払っている税金で、子どもも、お年寄りも安心して暮らし、困っている人を助けることができます。そして、大人になったときには今度は私が次の世代を支える番になります。大人になって税金を払う日が来ても、「取られた」と考えるだけではなく、「社会を支える一人になれた」と少しだけ誇れる大人になりたいと思いました。

小学生の税に関する習字

鈴鹿納税貯蓄組合連合会長賞



亀山市立川崎小学校
6年　片岡　柚陽

鈴鹿税務連絡協議会長賞



鈴鹿市立飯野小学校
5年　大原　莉香

鈴鹿税務推進協議会長賞



鈴鹿市立飯野小学校
6年　加納　芽依

金賞



鈴鹿市立玉垣小学校
6年　白石　夏菜



鈴鹿市立牧田小学校
6年　辻内　架帆



鈴鹿市立白子小学校
6年　松島　凛



銀賞



鈴鹿市立旭が丘小学校
6年　池村　朝陽



鈴鹿市立旭が丘小学校
5年　長嶺　孝亮



鈴鹿市立河曲小学校
6年　武内　輝

銅賞



亀山市立井田川小学校
5年　佐々木　美結



鈴鹿市立白子小学校
5年　石村　和奏



亀山市立亀山西小学校
5年　堀田　陽南



鈴鹿市立天栄小学校
6年　杉﨑　圭



鈴鹿市立箕田小学校
6年　伊藤　寧音子

中学生の税の標語

鈴鹿税務推進協議会長賞

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校　1年　竹口　慶

税金は　暮らしと未来の　応援団

鈴鹿税務連絡協議会長賞

鈴鹿中等教育学校　1年　伊藤　芹夏

誰かのためが　いつか自分へ　届く税

鈴鹿間税会長賞

鈴鹿中等教育学校　1年　新井　優杏

税の種　みんなで育てて　笑顔咲く

三重県間税会連合会長賞

鈴鹿市立神戸中学校　1年　尾﨑　翔真

税金で　つなぐ笑顔と　地域の和

金賞

亀山市立亀山中学校　1年　渡邉茉那美

納税は　社会のための　動力源

鈴鹿市立鈴峰中学校　1年　石田　陽太

税金は　みんなの暮らしを　支える手

銀賞

鈴鹿市立千代崎中学校　1年　小川　愛奏

一円も　億の力に　化ける税

亀山市立亀山中学校　1年　林　伶奈

税金で　広がる安心　つながる未来

鈴鹿市立神戸中学校　1年　三好　萌衣

正しく知り　未来へつなごう　税の役割

銅賞

鈴鹿市立創徳中学校　1年　吉田　柚乃

納税で　今の日本が　進化する

鈴鹿市立神戸中学校　1年　津田　多恵

税金で　よりよい未来に　貢献を

鈴鹿市立創徳中学校　1年　佐川　凌太

税金は　だれでもできる　社会へ貢献

鈴鹿市立白鳥中学校　1年　谷川つきは

安全な　くらしの裏に　税がある

鈴鹿市立白子中学校　1年　森口　莉央

伝えよう　税の仕組みを　次世代へ

亀山市立中部中学校　1年　白石　蒼悟

ふるさとに　感謝を伝える　納税で

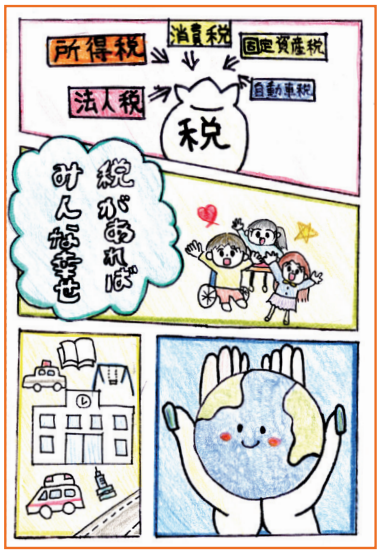
小学生の 絵はがきコンクール

鈴鹿税務推進協議会長賞



鈴鹿市立旭が丘小学校
6年　山本　結月

鈴鹿税務連絡協議会長賞



亀山市立関小学校
5年　山田　愛結

公益社団法人 鈴鹿法人会長賞



亀山市立川崎小学校
5年　佐久間　晴希

公益社団法人 鈴鹿法人会女性部会長賞



亀山市立関小学校
6年　代々　玲七

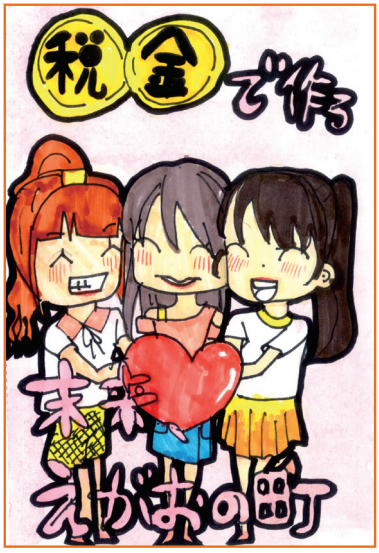
（敬称略）

中学生の 税についての作文入選者

三重県教育委員会賞	亀山市立中部中学校 3年　佐久間　泰希	鈴鹿納税貯蓄組合連合会	金賞	亀山市立亀山中学校 3年　水野　綾美
				亀山市立中部中学校 3年　市川理咲子
鈴鹿税務署長賞	鈴鹿中等教育学校 1年　大原　晴斗			亀山市立中部中学校 3年　清水　颯佑
鈴鹿税務推進協議会長賞	亀山市立関中学校 2年　松本　侑芽		銀賞	亀山市立亀山中学校 3年　石川　由真
				亀山市立中部中学校 3年　片受　彩織
鈴鹿税務連絡協議会長賞				亀山市立中部中学校 3年　原口　直緒
鈴鹿納税貯蓄組合連合会長賞	亀山市立中部中学校 3年　渡邉　菜乃花		銅賞	鈴鹿市立白子中学校 1年　奥田　早咲
				鈴鹿市立白子中学校 1年　國光　優那
				亀山市立亀山中学校 3年　麻生　悠真
				亀山市立中部中学校 3年　谷口　明莉
				亀山市立中部中学校 3年　中村　祐菜

小学生の 絵はがきコンクール

金賞



鈴鹿市立稲生小学校
５年　渡邊　葵也奈



鈴鹿市立神戸小学校
５年　岡田　渚



亀山市立川崎小学校
６年　山里　映乃

銀賞



鈴鹿市立桜島小学校
６年　森川　瑛太



亀山市立亀山西小学校
６年　大山　ゆず

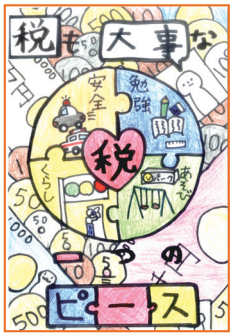


鈴鹿市立椿小学校
４年　岡本　杏

銅賞



鈴鹿市立神戸小学校
６年　長瀬　瑛太



亀山市立亀山東小学校
６年　森内　花瑛



鈴鹿市立若松小学校
６年　橋本　章希



亀山市立亀山南小学校
６年　奥村　和日羽



亀山市立亀山東小学校
５年　谷　凛夏

募集者【習字・作文】鈴鹿納税貯蓄組合連合会
【絵はがき】公益社団法人鈴鹿法人会
【標　　語】鈴　鹿　間　税　会